

【経済学部】

創価大学経済学部では、以下の教育目標を掲げている。

- 1.体系的な経済学教育を通して、問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する。
- 2.英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション力を備えた人材を育成する。
- 3.人間主義に基づく経済学教育を通して、世界の平和と人類の幸福に貢献する人間力を備えた人材を育成する。

この教育目標に基づき、経済学部では、問題発見・解決能力と論理的思考力に裏打ちされた豊かなコミュニケーション力もち、社会に貢献する創造的思考力・人間力を備えた教員を育成することをめざす。

1. 問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた教員の養成

中学校・高等学校の教育現場では、知識・技能の習得とともに、自ら問題を発見し探求を行う教育が求められている。創価大学経済学部では、必修科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」で経済理論の基礎を学び、その後、中級、上級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、さらには応用経済学の諸科目を履修し、経済学を用いた社会分析の具体的手法を学ぶ。こうした学習を通して、教員として必要な、複眼的視点からの問題発見・解決能力と論理的思考力を養う。

2. 豊かなコミュニケーション力を備えた教員の養成

中学校・高等学校の教育現場では、「生きる力」の基本となるコミュニケーション力を育成することが求められている。また、教員自身に、多様なバックグラウンドを持つ生徒・保護者と信頼関係を築くコミュニケーション力が必要なことはいままでもない。創価大学経済学部では、社会・経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができるようになるために、まず、必修科目「学術文章作法」(共通科目)、英語で、言語表現力の基礎を学ぶ。また、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができるようになるために、必修科目「演習 I, II, III」で、具体的な経済問題を、ディスカッションを通して学び、教員として必要な、コミュニケーション力や討議推進力を養う。

3. 創造的思考力・人間力のある教員を育成

中学校・高等学校の教育現場では、思考力・判断力・表現力等を育成することが求められている。創価大学経済学部では、社会の発展、人びとの幸福への方途を、社会科学的手法を用いて提案することができるようになるために、必修科目「演習 I, II, III」で個人やグループでのリサーチを通して、経済社会問題に取り組む。また、「演習 IV」「卒業論文研究」では、個人で課題を設定して、経済学を用いて、その解決策を提示し、教員として必要な創造的思考力を養う。

＜経済学部＞（中学校社会・高等学校地理歴史・高等学校公民）

各学年における到達目標

年次	到達目標
1年次	<p>経済現象に関する基礎知識を習得し、経済のしくみを解明するための基本的な方法を体得する。まず、経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができるようになるために、必修科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」で、経済理論の基礎を学ぶ。また、日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができるようになるために、必修科目「経済と歴史」で歴史的アプローチを学ぶ。</p>
2年次	<p>変化が著しい現代社会に対応できる中学校社会・高等学校地理歴史・高等学校公民を実践するために、経済学の専門性を高める段階に入る。経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができるようになるために、中級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学を学び、経済学を用いた社会分析の具体的手法を学び、複眼的視点をもった論理的思考力を養う。また、「現代経済」コースに配置された「金融論」「財政学」など、「グローバル地域経済」コースに配置された「開発と貧困の経済学」「日本経済史」などを履修し、日本・世界の経済・社会に関するより高度な知識を学び、それをもとに自ら課題を設定する力を養う。</p>
3年次	<p>中学校社会・高等学校地理歴史・高等学校公民の項目間の有機的な連携を向上させるために、経済学で培う専門知識・思考法を深める。世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができるようになるために、必修科目「演習」で、具体的な経済問題を、ディスカッションを通して学び、討議推進力を養う。また、JAS (Japan-Asia Studies Program) では、世界から集まった留学生たちとともに英語で、日本・アジアの経済・社会問題を学び、異文化間のコミュニケーション力を養う。</p>
4年次	<p>社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができるようになるために、「演習」「卒業論文研究」では、教員の指導の下、個人で課題を設定して、経済学を用いて、その解決策を提示する。また、教職実践演習で、教育職に就くための資質能力が学生自身の内面に形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させる。教育実習の経験を踏まえて、役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業の水準を向上させる。</p>

